

PEM035-16

会場: 303

時間: 5月27日09:45-10:00

## 次期太陽観測衛星計画SOLAR-C

### SOLAR-C: the next solar observing satellite

原 弘久<sup>1\*</sup>

Hirohisa Hara<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup>国立天文台

<sup>1</sup>NAOJ

ひのとり(ASTRO-A)、ようこう(SOLAR-A)、ひので(SOLAR-B)と続いてきた衛星からの太陽観測により、フレアのような高エネルギー現象から黒点の微細磁気構造のダイナミクスにいたる現象まで、日本の太陽観測衛星の貢献により太陽物理学は大きく進展した。「ようこう」や「ひので」からは国際協力を通して開発され、またこの分野で世界をリードする観測衛星計画と認識されている。我々はこれらの衛星がもたらした科学的成果をもとにして、次の太陽観測衛星「SOLAR-C」計画の検討を進めている。SOLAR-C計画では、黄道面を離れた軌道から太陽磁気周期の起源や極領域活動性の理解を目指したA案、高解像度の分光・偏光観測に重心をおき、「ひので」により見いだされた彩層・遷移層・コロナの磁気散逸ダイナミクスの理解を目指すB案の2案を並立させて検討を進めている。そして、衛星や観測装置の開発困難度について検討を通して見極めながら計画案の策定を行っている。A案では黄道面を脱出するために必要とされる衛星システムの成立性検討、B案では「ひので」よりも要求度の高い望遠鏡システムとそれを支える衛星システムの検討に優先度を設定して進めている。これらの検討は、海外の研究者・技術者を初期段階から交えたサブワーキンググループを組織して実施し、その結果をふまえて提案書の準備を進めている。

キーワード: 太陽

Keywords: Sun